



講師：新 辰朗  
DLIVE フィッシングパーツ  
代表兼チーフデザイナー。カ  
スタムハンドル「ウェーブ」  
の生みの親。トーナメントク  
ランク「ハイサイド」発売中！

### Theory3: 大会へ出てみよう!

今回は特別編として、新さんが実際に大会へ出場した模様を交え、エリアフィッシングの大会の模様と面白さ、大会に必要な準備について解説する。

# ARATA FULL THROTTLE 最速理論

Fastest Theory

エリアで最速・最短に上達するために覚える技術





↑気温が安定せず厳しい状態が続いた大会直前に新さんが目つけたパターンがハイサイドのボトムノック。厳しい中でも安定した釣果を出してくれたので、試合当日はベイトタックルで臨むことに決定したが、果たして結果は……？



↑はじめて大会に参加するなら、ある程度ヒットルアーやヒットカラーがわかる、安い慣れた釣り場で行われる大会から出場するのがいいだろう。大会が行われている釣り場へ積極的に通ってみるのも、上達への近道のひとつだ。

日々の釣りの中で数を伸ばすためには、状況をいち早く察知し、最適な釣り方をすることが求められるが、最速・最短で1尾を手にすることが最も重要視されるのが大会だろう。新さんが常に「最速」にこだわって釣りをしているのも、大会での釣りを前提としているからだ。

「大会に出ると、エリアに違う目標ができるので、今までと違ったエリアフィッシングが見えてきます。僕は個人的には順位にこだわってやっています。大会の良いところは、オーソパイクの競技などと違い、上級者でもビギナーの方でも、基本、使う道具があまり変わらず、同じアドバンテージの中で戦える事です。エントリーフィーを払ってちよっと緊張した釣りを楽しむくらいの気持ちで、気軽に出てみて欲しいですね」



果たして、新さんが日頃から唱えている最速理論は大会で本当に通用するのか……？ それを実証するために、今回は連載内の企画として実際に大会へ参加してきたので、大会に参加するための準備とあわせて、その模様をお伝えしよう。

## 検証のための知識①

# 大会出場に当たって必要な 事前準備は何がある？

大会に出場するにあたって必要な準備は、まずは当然だが大会にエントリーすること。エントリー後の準備としては、実釣面ではプラクティス（事前練習）、道具面ではメンテナンスがあげられる。

## プラは本番と同じ時間に 行うのがベスト！

「プラは、試合当日にいちばん釣れるであろうルアーを探す作業がメインになります。魚が遅いのか速いのか、バイトが深いのか浅いのかも同時にみえます。なるべく大会に近い日で、大会と同じ時間帯に同じポンドでプラするのがベストですね」

ただし、ここであまりに細かくルアーやカラーを決めてしまうと、当日パターンが違えばニクってしまいうので、絶対に当日はプラとは変わるといふことも頭に入れて練習しま



↑新さんの場合、膨大な数のクラックの中から、第一段階で下のボックスくらいの数に絞る。最終的にはここからさらに数が絞られていく。

しょう。放流があるかないかでもガラッと変わるので、放流のある大会は釣り場の放流時間に合わせて、放流がない大会なら放流が入る前に練習するといひですね」

## 必ずルールの確認と タックルのメンテをする

ほとんどの大会は、大会が行われるエリアのレギュレーションに則って行われるが、使用ルアーの制限など大会ごとに設けられたルールもあるので必ず事前に確認しよう。

「とくにルアーは直前になって使用できないのが判明すると、それまでの練習が無意味になってしまうので早めに確認しましょう」

大会は1回戦が20〜30分ローテーションなので、実際にはそれほど数のルアーを投げられる訳ではありませんから、使用するルアーはあまり幅広くではなく、10〜20個程度に絞っておきましょう」

## 大会前は必ず メンテナンスを 行うこと!

道具の力を100%出し切って戦いを有利に進めるためにも、道具のメンテナンスは前日までに必ずしておこう。「当日になってトップガイドが割れていた、リールの調子が悪かったら目も当てられません。大会が無くて1ヶ月に1度くらいのペースでメンテナンスをするようにしましょう」



↑安定した飛距離を実現するためにも、ガイドは全てクリーナーで清掃しておく。トップガイドの割れなどがなければ事前に確認しよう。

↑ラインの巻き替えは直前に巻き替えて新品の状態のまま使うのではなく、必ず1〜2回使ってから大会に臨むようにスケジュールを組むのが新流。その理由は、大会前日や当日巻き変えると当日に予期せぬトラブルが起きる恐れがあるからだ。ラインやフックの太さは、釣り場の魚のサイズなども考慮しよう。



↑「1尾が勝負を分ける事もありますから、僕は絞り込んだルアーは全てフックを新品に交換しています。当日もラウンドの合間など時間があるときに、使用したルアーのフックはできる限り交換します。ですから、忘れずに必ず用意しておきましょう」





## ARATA'S CHOICE



↑大会当日の新さんのクラックボックス。前日よりさらに種類・カラーともにも絞られてきている。

→クラックがメインの戦略だが、状況によってはクラックだけでは勝てないこともあるので、スプーンを用意ももちろん怠らない。

今回の仮説は、新さんに大会の予測を前日に行ったプラクティス時に立ててもらった。

「最近の朝霞ガーデンは、夏場の気温上昇でかなりのタフコンディションなので、試合当日はあまり悠長に確認できないだろうと思います。通常はスプーンなどで、なるべく効率の良い速い釣りから入っていくのがセオリーです。しかし、あまり釣れない時期の大会では、最初からスローで喰わせのパターンでいかないと、時間内に釣れない可能性があります」



最速で釣るための  
**仮説**  
プラクティス

出てくるので、スプーンで2〜3投チエックして、反応が鈍いならすぐクラックに移行しようと考えています。そのためクラックメインで表層とボトムのパターンを特に時間をかけて練習した結果「スプーンはある程度切り捨ててプラしました」

しかし、試合当日はこのプラのパターンだけをあまり引きずらないように、新鮮な気持ちでスプーン、クラックを見極めて使ったつもりです」

新さんが参加した大会については下記を参照して欲しい。



### 検証のための知識②

**スーパーフライデーに参戦取材!**  
**最速理論は実証できるのか!?**

エリアフィッシングの大会は、1シーズンかけて連戦する大規模なものから、釣具店やエリアが主催の小規模なものまで様々。最も気軽に参加できるのは、よく行くエリアで行われている大会だろう。

新さんが出場したのは、朝霞ガーデンで金曜日に不定期で行われているスーパーフライデー。今回のこの大会の特別ルールは、ムカイ製品しほりという点。それ以外は朝霞ガーデンのレギュレーション。大会は3ラウンドの予選からスタートし、ダイヤモンドの準決勝、決勝戦の順で行われ、当日はあいにくの天候だったが、多くの参加者で賑わった。

大会前日までは晴天が続く暑くタフな状況が続いていたが、当日は未明から降った雨の影響で魚の活性は高く、プラと大きく異なっていた。

その中で、いかにコンディションを読んでいち早く釣り方を状況にアジャストしていくか、まさに最速理論で新さんが常に言っていることが試される、またとない機会となったと言えるだろう。



↑はじめに主催者からルールの説明が行われるのでよく聞いておこう。



→新さんは予選第一ラウンドから絶好調! 実は予選3ラウンド全て1位通過。同じ組の参加者にはかなりプレッシャーを受けたのではないだろうか。

→予選の第二ラウンド以降は先着順で釣り座を決める。時間ギリギリまで粘るのか、次のラウンドで好きな釣り座を選ぶのかの駆け引きが生まれる。



→準決勝も1位で通過してついに決勝戦へ。釣り座はくじ引きで決まるが、新さんはいつも通り事前の状況確認に余念がない。

→決勝戦は2名が同尾数でサドンデスへ突入! お互いにバラシがある接戦を制し、新さんが優勝をつかみ取った!



↑大会中は名前ではなくゼッケン番号で呼ばれる(番号は抽選によって決まる)。新さんのゼッケンは13番。ゼッケン番号により、予選第一ラウンドを回る順番が組み分けされる。新さんはフライ池からのスタート組だった。



↑大会後のじゃんけん大会では、優勝商品であるサイタッグ AGS をなんと新さんが賞品として提供! 超豪華なじゃんけん大会になりました!

→今大会の上位入賞者はこちらの3名。







# Verification

最速で釣るための  
**検証**  
大会当日



大会当日は、前日までの晴天と打って変わって暴風雨の幕開け。「これはプラとは全く違った釣りになりそうですね。でもそういうこと

も想定して練習してきましたから自信を持ってやりますよ！」という頼もしい言葉でスタート。予選開始早々、周りの参加者も次々と竿を曲げており、タフだったプラに比べてかなり魚の活性は高いようだ。

「言っていた通り、大きくパターンが変わりましたね。でも練習で絞って入ってきたクランクは基本的には効いていますし、活性の高い魚を釣らなさいいけないので、状況に合わせてスプーンを多用する釣りに方向転換し、これが見事に成功しました。ただ、プラでよかったボトムノックは効かず、表層メインの釣りに引きたね。ここでボトムの釣りに引きずられてしまった人は、厳しかったのではないのでしょうか」

予選第一ラウンドから新さんはトップでスタートし、難なく予選を通過。続く準決勝ではスプーンから始めるも、状況を読んだこの日当たっていたダークな喰わせ系クランクのクランクへ早めにチェンジし、準決勝もなんとトップで通過！

「ここまででは予想通りの展開です。決勝はZAN MULLERメインでダメならハイサイドかスプー



↑ウイングルアーとなったのは、いちばん左のザンムLL。表層を意識した魚が多かったので、ハイサイドの表層デッドスローで獲った魚も多かったとのこと。スプーンはヌバイス1.0g、アンチェンD0.4g、ボワロ0.6gを使用した。

ンへ目先を変えて流していきます。最後まで気は抜けませんよ」

決勝戦は20分2ラウンドで行われたが上位2名が同点で勝負がつかず早掛けサドンデス戦へと突入！双方ヒットさせるもバラす一進一退の接戦を制した新さんが見事優勝！

「一投目からクランクでいったら意外と活性が高く、遅い展開のクランクではヤバイと思いましたが、意外と早く活性が落ちたので、あとは練習通りの釣りで勝てました」

いかに早くストロングパターンを見つけていかるといって「最速理論」を、自らが実証した形で大会は幕を閉じた。

## 今月の一言

大会へ出れば  
新たなエリアの世界が  
待っている!

大会に出場すると、今までとは違ったエリアの世界が見えると思います。僕は順位にこだわって大会へ出ていますが、好きなルアーで勝つことにこだわったり、楽しみ方は色々です。なにより大会では最速で結果を出すことが求められるので、必然的に釣りも上手くなります。釣りの場合、バイクのレースと違って道具もみんな一緒ですし、相手が生き物ですからどうなるか本当にわかりません。誰にでもチャンスがありますから、一度出てみて欲しいですね!



## ARATA'S VOICE



◆新さんから、スーパーフライデーのウイングルアーを1名様にプレゼント！欲しい方は本誌アンケートハガキの何でも欄（携帯からはご意見欄）にハンドル希望と書いてご応募ください。

- 新さんの当日のタックル
- [タックル1: クランク・中活有用] レッドタキオン (ノーマル) + ニューイグジスト 2004+ウェーブW 70 mmハンドル+ライン: ヤマトヨエリアフロロ 1.5lb
  - [タックル2: ライトクランク・低活有用] スーパーアンダーゼロ + ニューイグジスト 2004+ウェーブW 70 mmハンドル+ライン: ヤマトヨエリアフロロ 1.5lb
  - [タックル3: ミドルクランク・遠投/乗せ用] バッカー+ニューイグジスト 2004+ウェーブW 80 mmハンドル+ライン: ヤマトヨエリアフロロ 1.7lb
  - [タックル4: マイクロスプーン用] スーパーアンダーゼロ+スティーズカスタム+ウェーブ MP7 シングルハンドル+ライン ヤマトヨエリアフロロ 1.2lb
  - [タックル5: ペイト (ハイサイド ボトムノック専用) エリアストライカー\*フロト (10月発売) + ABU REVO LTZ ZPI フルチューン\*AE74/ウェーブペイト 70 mm+ライン: ヤマトヨエリアフロロ 4lb



朝霞ガーデン  
スーパーフライデー決戦  
MUKAI CUP  
**優勝!**